

**平成17年度「福井元気宣言」推進に係る政策合意の取組結果**  
**(全部局による取組み)**  
**(平成18年3月末現在)**

「福井元気宣言」の4つのビジョンを着実に実現していくため、平成17年4月に知事と合意をした「政策合意」の取組結果について、次のとおり報告します。

平成18年3月

総務部長	杉本達治	総合政策部長	品谷義雄
安全環境部長	筑後康雄	健康福祉部長	梅田幸重
産業労働部長			
兼企業局長	藤原宣章	農林水産部長	川口義夫
土木部長	児玉忠		

## I 総括コメント

### 1 わかりやすい県政広報

- ・ 県民への県政情報提供が適時適切に行われるよう、報道機関への資料提供や記者会見に積極的に取り組みました。特に、平成18年豪雪においては、除雪の際の注意事項や、除雪作業時の健康管理など県民に周知すべき情報を報道機関を通じ提供するとともに、県の広報媒体を臨時に活用して広報を行いました。
- ・ 広報番組が県民の幅広い層に親しまれるよう、広報番組等への県民参加、若手職員の起用を積極的に進めるとともに、広報企画への職員提案を採用するなど、広報番組の内容の充実を図りました。
- ・ 新年度においては、新たにテレビ広報番組に字幕スーパーを表示し、聴覚障害者の方に配慮した広報番組づくりに努めていきます。

### 2 「エネルギー研究開発拠点化計画」の推進

- ・ 「エネルギー研究開発拠点化計画」については、若狭湾エネルギー研究センターに拠点化推進組織を開設するとともに、産学官による拠点化推進会議を設置し、平成18年度の施策を中心とした推進方針を決定しました。
- ・ また、推進組織では、産学官のネットワーク体制の構築に取り組むとともに、原子力関連業務従事者研修を実施しました。
- ・ さらに、陽子線がん治療施設については、「陽子線がん治療施設等整備検討委員会」を設置し、施設の規模や機能・内容、施設の運営等、施設整備に必要な事項についてとりまとめ、基本設計に着手しました。
- ・ 新年度においては、原子力・エネルギー関連技術による地域産業の振興を図るため、新技術や新商品の研究開発に取り組む意欲的な嶺南企業等への技術移転を促進するとともに、陽子線がん治療施設については、平成21年度の治療開始に向けて、実施設計を行います。

### 3 ふくいブランド、健康長寿

#### (1) ふくいブランドの創造

- ・ ふくいブランドの創造については、「健康長寿」を基本ブランドとして、県外事務所はもとより全庁を挙げて、出版社等へのセールスや、全国大会や学会などの参加者へのPRを実施しました。
- ・ また、食や自然環境、産業など地域ブランドの核となる素材を育てていくため、商品開発や販路開拓への支援を実施しました。
- ・ 新年度においては、県民一人ひとりが、かたりべとしてふくいの魅力を県内外に広く語る「考福学」運動を展開するなど、魅力の発信を強化していきます。

## (2)健康長寿ふくいの推進

- ・ ふくいブランドのキーコンセプトである「健康長寿」を推進するため、健康長寿ふくい推進会議を設置し、各機関が連携を図りながら健康長寿に関する研究や県民の健康づくり、さらに「健康長寿ふくい」のイメージ発信等に取り組みました。
- ・ また、新たに「健康長寿ふくい」推進特別アドバイザーを設置し、県の施策への助言、指導を受けるとともに、「健康長寿ふくい」のイメージ発信に努めました。
- ・ 新年度においては、健康長寿施策を一層推進し、健康長寿のブランドとしての確立と発信に取り組みます。

## 4 少子化対策

- ・ きめ細かな子育て支援をはじめ、結婚相談事業の充実といった結婚対策から、企業における仕事と子育てが両立できる労働環境の整備や親の子育て力の向上など、子どもを産み育てやすい環境づくりに取り組みました。
- ・ 新年度においては、「元気な子ども・子育て応援計画」に基づく各種施策の着実な推進を図り、市町はもとより企業や地域の協力も得ながら、結婚から妊娠、出産、育児、教育まで、子どもを安心して産み育てやすい環境づくりを社会全体で進めていきます。

## 5 県民の安全・安心

- ・ テロや有事等における県民の保護については、昨年7月、全国で最初となる国民保護計画を作成するとともに、計画をより実効性のあるものにするため、国と共同で、11月に美浜町で全国で初めての実動訓練を実施しました。
- ・ 安全で安心なまちづくりに向けては、警察本部等と一体となって「治安回復プログラム2005」に取り組んだ結果、刑法犯認知件数の減少率および検挙率が全国トップレベルとなるなど、治安の回復傾向を定着させることができました。
- ・ 特に、子どもの安全・安心については、地域ぐるみで「子ども安心3万人作戦」を全県的に展開し、登下校時の見守り活動やパトロールを実施しました。
- ・ さらに、教育や警察等の関係機関と連携しながら、県民生活の安全・安心の実現に向けて一層の強化を図っていきます。
- ・ 食の安全・安心については、「ふくい食の安全・安心行動計画」に基づき、事業者の食品衛生に関する自主管理体制の確立を支援・指導した結果、人口当たりの食中毒患者数の少なさが全国上位となりました。
- ・ また、トレーサビリティシステムに豚肉、鶏卵の2品目を新たに追加したほか、米、青果物についても、各JA等と連携しながら生産履歴情報を開示しました。
- ・ 新年度においては、トレーサビリティシステムのさらなる充実に向けて、生産管理体制やチェック体制の強化を図ります。

## 6 豊かな自然と美しい環境

- ・ 豊かで美しい水資源の保全については、直接飲用可能な湧水等を「ふくいのおいしい水」に認定し、水資源のブランド化に向けて取り組むとともに、「若狭町水を活かしたまちづくり実行委員会」が実施する地域づくりの支援を行いました。今後は、認定された「ふくいのおいしい水」を県内外に情報発信し、地域振興につなげていきます。  
また、11月に、三方五湖がラムサール条約湿地に登録され、国内外に重要な湿地として認められたことから、地域住民や環境保全団体等からなる検討委員会を開催し、保全・活用に向けて検討を進めました。今後は、検討委員会の検討結果を踏まえ、新たな地域ブランドとして観光振興や地域の活性化につなげていきます。
- ・ 県産材の利用拡大および森づくりについては、「木を伐って使う」ことに重点を置いた取り組みをさらに展開するとともに、県民参加による森づくりの推進を図っていきます。  
また、平成21年度に開催予定の「第60回全国植樹祭」については、本県にふさわしい植樹祭となるよう、基本構想の具体化を進めていきます。

## 7 産業の活性化

### (1) 15,000人の雇用創出

- ・ 雇用創出プランに掲げた15,000人の雇用創出実現に向けて、施策を着実に実施した結果、3,200人(3月末見込)の雇用が創出されました。
- ・ 「若者就職支援センター(ジョブカフェ)」に加え、ミニジョブカフェを県内9か所に設置し、県内各地域で若者の就職支援に取り組むとともに、県内事業所に対して求人要件の緩和などの要請を実施しました。
- ・ また、新規就農について、相談会を開催するなど就農を促進しました。
- ・ さらに、きめこまやかな就職支援、雇用のミスマッチ解消に取り組み、フリーターの常用雇用化や失業者の減少を図っていきます。

### (2) ビジットふくい

- ・ 「ビジット”ふくい”推進計画」に基づき、地域住民、観光事業者、観光協会、市町村と、観光地の活性化のための協議を重ねました。
- ・ 観光地のハード整備等を行う「活性化プラン」は、市町村が合併を控えてハード整備を中長期的な課題としてとらえたこと等から、プランの作成までには至らなかったものの、広域的な観光推進・異業種連携のための協議会が3か所で設立されました。
- ・ さらに、旅行エージェント等と一層の連携を図り、地域ブランド創造等に取り組む地域を取り入れた旅行商品を企画し、観光地のPRや観光客誘致につなげていきます。

### (3) ふくい野菜のブランド化

- ・ 本県農産物としては初の海外輸出となった福井すいかの東アジアへの輸出や、新たにインターネットを取り入れる等多様な販売展開を促進し、東アジア市場における高い評価や、生産者等がイベント終了後に都市圏のホテルや大手スーパーと継続取引を開始するなどの新たな動きが出ています。
- ・ さらに、こうした成果をてこに生産拡大を推進し、安全・安心で高付加価値のふくい野菜をブランドとして育成します。

## 8 食育の推進

- ・ 家庭・地域・学校における食育を推進するため、指針となる食育活動マニュアルを作成し、食育ボランティアや保育士、栄養士等直接食育に携わる人材に対する専門的知識の普及や、学校栄養教諭の配置による食に関する指導の充実、先進的な取組みを進める市町に対する支援、食育を考えるフォーラムの開催等県民に対する食育の啓発に取り組みました。
- ・ 新年度においては、特に将来を担う若者を対象に、食を大切にする気持ちの醸成やバランスの良い食生活を推進するため、魚をさばく体験や食べ残しを減らす活動等を展開するなど、効果的な食育活動を推進します。

## 9 景観を活かす街並み創造

- ・ 美しい県土を形成する広域的な景観を保全・創出するため、景観法に基づく景観計画を策定する市町を支援するとともに、地域の歴史・文化等を反映し、周囲の環境と一体をなして良好な景観を形成している伝統的民家を、県民共通の資産として後世に継承し本県のブランドとして発信するため、全国で初めての「福井県伝統的民家の保存および活用の推進に関する条例」を制定しました。
- ・ さらに、豊かな自然、歴史的遺産や伝統・文化などの地域資源を積極的に保存活用し、福井のブランドとして次世代に継承することにより、ふるさとに夢と誇りのもてる地域づくりをすすめます。

## II 「政策合意」の取組項目に係る結果について

別紙「平成17年度 取組項目に係る結果報告(全部局による取組み)」のとおり

# 平成17年度 取組項目に係る結果報告(全部局による取組み)

(平成18年3月末現在)

## 【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・取組を継続します。(例:成果を上げるためには年度を超えて取り組む必要のあるもの)

役職	総務部長	氏名	杉本達治
取組項目		取組結果	
1	わかりやすい県政広報  県民に県政情報がよりわかりやすく理解されるよう、適時適切な情報提供に努めます。	[成果等]	目標を達成しました。  県の広報や報道機関に取上げてもらう効果的な情報提供方法等について各課に周知徹底しました。 ( 広報力強化会議……月2回(24回開催) 職場管理者会議……4月26日 広報広聴連絡会議…5月23日 )  報道機関への資料提供や記者会見に積極的に取り組みました。また、記者発表資料については、県のホームページで閲覧できるようにしました。 ( 記者発表(資料提供) H17 2,311件 H16 2,140件 " (記者会見) 116回 104回 )  平成18年豪雪にあたって、除雪の際の留意事項、除雪への協力依頼、除雪作業時の健康管理など、県民に周知すべき情報を報道機関へ情報提供するとともに、臨時に県の広報媒体(新聞、ラジオ、テレビ)を活用して広報を行いました。 ( 新聞……4回掲載 ラジオ……6回放送 テレビ……2回放送 )
	総務部企画幹を責任者とする広報力強化会議を設置し、県や関係団体が行う新聞などマスコミを活用した広報の集約化・統一化を図るとともに、行事、募集等の情報をわかりやすい表現で一元的にもれなく発信するよう努めます。	[成果等]	目標を達成しました。  4月に総務部企画幹をトップとする広報力強化会議を設置し、新聞等を通じて行う情報発信について、全庁的な調整を行いました。 ( ・県(外郭団体等を含む)が行うお知らせを可能な限り「福井県からのお知らせ」に集約 ・新聞掲載日の統一(1日、15日) ・写真の活用やレイアウトの工夫 )
	県政広報が県民の幅広い層に親しまれるよう、広報番組等への県民参加や若手職員の起用、広報企画への職員提案の採用を進めます。  ( 広報番組等への県民参加 120回 若手職員の番組等出演 60回 )	[成果等]	目標を達成しました。  広報番組等への県民参加や若手職員の起用を進めました。 ( 広報番組への県民参加 127回 若手職員の番組出演 62回 )  ベンチャーグループからの提言を受け番組を充実させるなど、広報企画への職員提案の採用を進めました。 ( 提言内容 コーナーを新設し幅広い層の視聴者を惹きつけることが必要 反映状況 ふくいミニミニ情報～ふくいの伝統を受け継ぐ者たち～を新設し、福井の伝統工芸を担う若手職人を紹介 )

## 平成17年度 取組項目に係る結果報告(全部局による取組み)

(平成18年3月末現在)

### 【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・取組を継続します。(例:成果を上げるためには年度を超えて取り組む必要のあるもの)

役職	総合政策部長	氏名	品 谷 義 雄
取 組 項 目		取 組 結 果	
2	「エネルギー研究開発拠点化計画」の推進 『エネルギー研究開発拠点化計画』に基づき、「研究開発機能の強化」、「人材の育成・交流」、「産業の創出・育成」の観点から、産学官ネットワークの形成、研修制度の確立等に取り組みます。	〔成果等〕	<p>取組を継続します。</p> <p>若狭湾エネルギー研究センターにエネルギー研究開発拠点化推進組織を設置しました。 また、ふくい未来技術創造ネットワーク推進事業に取り組むとともに、原子力関連業務従事者研修等を実施しました。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>○エネルギー研究開発拠点化推進組織                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成17年7月24日設置</li> </ul> </li> <li>○ふくい未来技術創造ネットワーク推進事業                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ふくい未来技術創造ネットワーク推進会議 (2回)</li> <li>・原子力・エネルギー関連技術活用研究会 (3回、78企業・機関参加)</li> <li>・放射線利用材料開発分科会 (4回、31企業・機関参加)</li> <li>・グリーン資源・エネルギー開発分科会 (4回、35企業・機関参加)</li> <li>・保守技術・廃止措置技術開発分科会 (3回、41企業・機関参加)</li> <li>・可能性試験調査研究 (5テーマ)</li> <li>・技術情報セミナー等 (6回 約800名参加)</li> </ul> </li> <li>○原子力関連業務従事者研修                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・トップセミナー (2回、受講者148名)</li> <li>・一般研修 (27回、受講者313名)</li> <li>・専門研修 (39回、受講者129名)</li> </ul> </li> <li>○原子力研究・教育広域連携懇談会                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・懇談会の設置 (16の県内外の大学・研究機関等が参加)</li> <li>・懇談会 (1回)</li> <li>・研究連携ワーキンググループ (2回)</li> <li>・教育連携ワーキンググループ (2回)</li> </ul> </li> </ul> </div>

## 平成17年度 取組項目に係る結果報告(全部局による取組み)

(平成18年3月末現在)

**【取組結果の区分】**

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・取組を継続します。(例:成果を上げるためには年度を超えて取り組む必要のあるもの)

役職	総合政策部長	氏名	品 谷 義 雄
取 組 項 目		取 組 結 果	
<p>「安全・安心の確保」から、高経年化対策の強化と研究対策等の推進、地域の安全医療システムの整備を働きかけるとともに、陽子線がん治療を中心としたがんの研究治療施設の整備に努めます。</p>		<p>[成果等] 取組を継続します。</p>	
		<p>国や原子力安全基盤機構等は、安全監視や高経年化研究の体制を強化するとともに、電力事業者は、嶺南地域の安全医療システムの整備についての具体的な検討を行っています。また、陽子線がん治療施設の基本設計に着手しました。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>○高経年化対策の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成17年 7月 原子力安全システム研究所が高経年化研究センターを設置</li> <li>・平成17年 8月 国の高経年化対策検討委員会が高経年化対策充実強化のための新たな施策を取りまとめ</li> <li>・平成17年 9月 核燃料サイクル開発機構が保全技術研究グループを設置</li> <li>・平成17年10月 原子力安全基盤機構が福井事務所を設置</li> <li>・平成17年11月 日本原子力研究開発機構が福井県における高経年化調査研究会を設置</li> </ul> <p>○嶺南地域における安全医療システムの整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医師確保のための奨学金等による人材育成支援制度の導入</li> <li>・救急車輻やヘリコプターの活用による緊急時における患者搬送体制の整備</li> <li>・熱傷や被ばく治療などにも対処できる高度な研究医療施設の整備</li> </ul> </div>	

## 平成17年度 取組項目に係る結果報告(全部局による取組み)

(平成18年3月末現在)

**【取組結果の区分】**

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・取組を継続します。(例:成果を上げるためには年度を超えて取り組む必要のあるもの)

役職	総合政策部長	氏名	品 谷 義 雄
取 組 項 目		取 組 結 果	
<p>3 ふくいブランド、健康長寿 (1) ふくいブランドの創造 「地域ブランド」の核となる素材を開発し磨き上げていくため、産業、自然、歴史、食、伝統芸能、観光などの分野において、素材の発掘や開発、販路拡大、情報発信を支援することにより、個別のブランドづくりに取り組みます。</p> <p>福井米（コシヒカリ、イクヒカリ等）、ふくい野菜、おろしそば等のPR、販路拡大</p> <p>高糖度ミディトマトや日本一早いナシなど高収益園芸品目の育成と、これらに次ぐ新たな品目の開発</p> <p>一乗谷朝倉氏遺跡の整備・活用</p> <p>ふくいのおいしい水をPR</p> <p>ものづくりや新産業の創出に向けた支援</p>	<p>[成果等] 取組を継続します。</p> <p>産業、自然、歴史、食、伝統芸能、観光などの分野において、素材の発掘や開発、販路拡大、情報発信を支援することにより、「地域ブランド」の核となる個別ブランドづくりに全庁的に取り組みました。</p> <p>○福井米、ふくい野菜、おろしそば等のPR、販路拡大 ・コシヒカリの田植え・稲刈り体験の参加者数 約450人</p> <p>・イクヒカリが麒麟ビールの全国キャンペーンのプレゼントに採用</p> <p>・福井すいか1.3トンを県産農林水産物として初輸出</p> <p>・そば博覧会in福井開催(11/5～7、約3万人来場)</p> <p>・食博覧会・大阪でおろしそば実演・販売等 (4/28～5/8、約65万人来場)</p> <p>○高収益園芸品目の育成と、新たな品目の開発 ・高収益園芸品目の栽培面積拡大 0.4ha(17年3月末)→1.4ha(18年3月末)</p> <p>・農業試験場で、新たな高収益園芸品目の候補として6品目試作</p> <p>○一乗谷朝倉氏遺跡の整備・活用 ・同遺跡新10か年計画に基づいた発掘調査(3千㎡)と平面復原(3.8千㎡)の実施</p> <p>・国民文化祭を核とした多彩なイベント開催 復原町並復興記念 朝倉ゆめまるまつり 7/18 国民文化祭朝倉文化フェスティバル 10/28～30 等</p> <p>○ふくいのおいしい水 ・「ふくいのおいしい水」認定35箇所</p> <p>・「若狭町水を活かしたまちづくり事業」を採択・支援中</p> <p>○ものづくりや新産業の創出に向けた支援 ・開業特別支援資金などによる創業支援 創業1,322社(推計値)</p> <p>・デザインを活用した新商品開発への支援 5件</p> <p>・商品開発の専門家による商品ブランド力向上支援 7件</p>		

## 平成17年度 取組項目に係る結果報告(全部局による取組み)

(平成18年3月末現在)

### 【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・取組を継続します。(例:成果を上げるためには年度を超えて取り組む必要のあるもの)

役職	総合政策部長	氏名	品 谷 義 雄
取 組 項 目		取 組 結 果	
<p>個別ブランドの集積による地域ブランド化を図るため、意欲を持って取り組んでいる地域に対して、専門家の派遣など、県の持つ制度を活用して重点的に支援します。</p> <p>観光客の誘致拡大 商品開発・販売への支援・アドバイス 県の広報媒体による情報発信</p>		<p>〔成果等〕 取組を継続します。</p> <p>県庁関係課および関係団体の制度を活用して、観光客の誘致、開発した商品の販路開拓、県内外への情報発信を行い、地域ブランド化に取り組む地域を重点的に支援しました。</p> <p>○ビジットふくい観光客誘致拡大事業 17年度 三国地域 9千人、朝倉氏遺跡 1万人</p> <p>○都市圏での販路拡大 三国湊プロジェクトのジェラートを都市圏のホテル等6社に紹介</p> <p>○県による情報発信 イベントカレンダー 13回 ドットコム 8回 県外事務所のパブリシティ活動により取り上げられた地域3か所(三国、永平寺、若狭)</p> <p>○永平寺地域の景観形成方法について助言を得る 17年8月 堀繁教授(東京大学)</p>	
<p>ふくい南青山291や県外事務所、インターネットを活用して、全国に向けた販路開拓の支援に取り組みます。</p> <p>ふくい南青山291を民間企業に委託 東京・大阪圏にアドバイザーを設置し、県内企業の取引拡大のためマッチング等を実施 インターネット通信販売会社と連携したネット上での県産農林水産物の物産展の開催 年2回 「ふくい朝市」の開催 年3回(大阪) 新品種「イクヒカリ」の販売促進</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>南青山291、県外事務所、インターネットの活用により、全国に向けた販路開拓の支援を実施しました。</p> <p>○ふくい南青山291を平成17年10月から民間事業者(電通)に業務委託 ・施設来客数 43,138人 (前年同期比 108.7%増) ・売上高 37,957千円 (前年同期比 118.9%増)</p> <p>○アドバイザーによる取引拡大のためマッチング ・県内企業参加数 87社 ・見積書提出、成約案件数 57件(目標30件)</p> <p>○インターネット物産展の開催(2回) ・オイシックス 11/3~23、23事業者出展、販売額 約600万円 ・楽天 1/20~2/19、20事業者出展、販売額約2,100万円</p> <p>○「ふくい」朝市の開催(3回) ・豊中市「せんちゅうぱる」6~7月、延べ12業者出店、販売額約93万円、来場者約17千人</p> <p>○新品種「イクヒカリ」の販売促進 ・小売事業者による県内を中心とした販売促進活動の支援 ・学校給食への導入(18年1月) ・イクヒカリが麒麟ビールの全国キャンペーンのプレゼントに採用</p>	

## 平成17年度 取組項目に係る結果報告(全部局による取組み)

(平成18年3月末現在)

### 【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・取組を継続します。(例:成果を上げるためには年度を超えて取り組む必要のあるもの)

役職	総合政策部長	氏名	品 谷 義 雄
取 組 項 目		取 組 結 果	
<p>福井県の認知度の向上を図るため、「健康長寿」をキーコンセプトとして、県作成のパンフレット等の調整やセールス活動の展開など、统一的にブランドイメージを発信します。</p> <p>〔県が作成する印刷物等に地図デザインと「健康長寿」の文言を記載〕</p>		<p>〔成果等〕 取組を継続します。</p> <p>「健康長寿」をキーコンセプトとした統一的なイメージ発信を行うための取組み方針や、職員一人ひとりによるセールス活動の方法などについてのマニュアルを取りまとめ、これを指針として全所属が「ふくいブランド」の発信に取り組んでいます。</p> <p>〔県が作成する印刷物等に地図デザインと「健康長寿」の文言を記載することや、県職員が日常業務の中で「ふくいブランド」をPRするための取組み方針などを定めた指針を策定〕</p>	
<p>著名人の情報発信力を活用するため、会議や講演会で来県した講師等にきめ細かな対応を行います。</p> <p>〔出演交渉等の準備段階から担当課と県外事務所が連携〕</p> <p>講師等に対して全職員が福井県のセールス活動を実施</p> <p>担当課と県外事務所が連携したアフターフォローを実施</p>		<p>〔成果等〕 取組を継続します。</p> <p>著名人等への対応方針を定めたマニュアルを策定し、これを指針としてきめ細かな対応を行っています。</p> <p>〔事前、事後に担当課と県外事務所が連携して著名人に対応することや、リーフレットの配布等講師等に対して全職員が福井県のセールス活動を実施することなどを定めた指針を策定〕</p>	
<p>全国に向けて福井県の情報が発信されるよう、マスコミや出版社等にアプローチするなどセールス活動を展開します。</p> <p>〔各部局が全国レベルの新聞や雑誌等へ積極的に寄稿・投稿〕</p> <p>各部局が関係団体が発行する機関誌や企業が発行する社内報等に寄稿・投稿</p> <p>各部局が県外で情報発信活動を行っている東京・大阪事務所に対し情報提供</p> <p>意見発表の場に積極的に参加</p> <p>各種の会議や全国大会、学会などの開催に合わせて本県情報を積極的に発信</p>		<p>〔成果等〕 取組を継続します。</p> <p>全庁を挙げて、マスコミや出版社等にアプローチするなどのセールス活動を展開しました。</p> <p>〔○寄稿・投稿で記事掲載された主なもの          ・朝日新聞・朝刊(17年11月24日)          ・時事通信社・厚生福祉(17年8月30日)          ・産経新聞・月刊地球環境(17年9月号)          ○ふくいブランド推進チームを中心に、各部局から東京・大阪事務所に対し発信すべき情報を提供          ○各種会議や全国大会、学会などを開催したり、それに参加する際の対応方針について定めた指針を策定          〔意見発表、情報発信を行った主な会議、大会等〕          ・日本身体障害者福祉大会ふくい大会(17年5月、県内)          ・災害ボランティア全国フォーラム'05 inふくい(17年6月、県内)          ・全国広報広聴研究大会(17年9月、愛知県)〕</p>	

## 平成17年度 取組項目に係る結果報告(全部局による取組み)

(平成18年3月末現在)

### 【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割を超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・取組を継続します。(例:成果を上げるためには年度を超えて取り組む必要のあるもの)

役職	安全環境部長	氏名	筑後 康雄
取組項目		取組結果	
<p>5 県民の安全・安心 「福井県国民保護計画」を国民保護協議会での審議や国との協議を経て、全国で最初に作成します。 さらに、国民保護措置を具体的に運用するため、関係機関等との議論を踏まえ、関係部局と十分協議の上、個別にマニュアルを作成するほか、国民保護計画の実効性を検証するため、国と共同で図上訓練を実施します。</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。 17年7月22日に閣議決定を受け、全国で最初となる「福井県国民保護計画」を作成しました。 また、国民保護措置を具体的に運用するための7つの個別マニュアルは、ワーキンググループの議論を踏まえ、18年3月末までに作成しました。 また、国民保護計画をより実効性のあるものにするため、17年11月27日に、全国で初めて、美浜町で国との共同での実動訓練を実施しました。 さらに、実動訓練の課題などを踏まえ、18年2月21日に開催した国民保護協議会で、計画変更を協議し了承されました。</p>	
<p>昨年度に策定した想定外危機事象対応マニュアルをはじめ、全ての個別の危機対策マニュアルに基づき訓練を実施し、その実効性を検証します。</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。 個別の危機対策マニュアルに基づいた図上訓練を5月中に実施し、その結果をもとに、マニュアルの修正を行いました。</p>	
<p>「市町村安全安心センター」による指導のもと、地域住民に防犯パトロールや車両防犯診断などの自主防犯活動を実践体験してもらい、県警察と密接に連携し、自主防犯団体への加入、新規結成と活動のさらなる促進を図ります。</p>		<p>〔成果等〕 目標を上回って達成しました。 「市町村安全安心センター」による指導のもと、地域住民に防犯パトロールや車両防犯診断などの自主防犯活動を実践体験してもらうことにより、地域における防犯意識の高揚および自主防犯活動の促進に取り組みました。 また、公安委員会、警察本部と連携して「福井治安回復プログラム2005」に取り組んだ結果、刑法犯認知件数が3年連続して減少しました。 特に、平成17年の減少率・検挙率はともに全国トップレベルとなるなど、治安の回復傾向が定着しました。</p>	
<p>〔ふくいマイタウン・パトロール隊の新規結成数〕 35団体 1,800人 (16年度末現在 99団体 5,431人)</p>		<p>〔自主防犯活動実践体験〕 全小学校区(214)で実施 平成17年刑法犯認知件数 8,324件(前年 10,060件) ふくいマイタウン・パトロール隊の新規結成数 51団体 2,498人 154団体 8,160人</p>	

## 平成17年度 取組項目に係る結果報告(全部局による取組み)

(平成18年3月末現在)

### 【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例: 成果が目標を概ね2割を超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例: 成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例: 成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例: 成果が目標に及ばなかったもの)
- ・取組を継続します。(例: 成果を上げるためには年度を超えて取り組む必要のあるもの)

役職	安全環境部長	氏名	筑後 康雄
取組項目		取組結果	
<p>子どもの安全を確保するため、県、県教育委員会、県警察、地域住民などの連携・協力により、登下校時等の子どもに対する見守り活動を推進します。</p> <p>〔子ども見守り活動参加者 30,000人〕</p>		<p>〔成果等〕 目標を上回って達成しました。</p>	
		<p>子どもの安全を確保するため、県下214小学校区において、警察、市町、地域住民、事業所など関係機関と協力し、登下校時や帰宅後等の見守り活動に取り組みました。</p> <p>〔子ども見守り活動参加者 約45,000人〕</p>	
<p>生産・製造から流通・消費までの関係者および行政が一体となって食の安全・安心への理解を深めるため、現地見学会やフォーラム等を実施するとともに、食品事業者による自主管理体制の確立を支援し、人口当たりの食中毒患者数の少なさを全国上位を目指します。</p> <p>また、安全・安心な県農林水産物を供給するため、生産、流通、販売関係者の理解の促進を図りながら、トレーサビリティシステムの構築を進めます。</p> <p>〔人口10万人当たりの食中毒患者数の少なさ (16年)104人(全国第10位)〕</p> <p>〔トレーサビリティシステムの構築 新規に2品目追加(豚肉、鶏卵)〕</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p>	
		<p>「ふくい食の安全・安心行動計画」に基づき、フォーラムや現地見学会などを実施し、県民への食の安全・安心意識の高揚を図りました。</p> <p>また、事業者の食品衛生に関する自主管理体制を支援するため、マニュアルを作成し普及を図るとともに、巡回指導を実施しました。</p> <p>さらに、安全安心な農林水産物を供給するため、トレーサビリティシステム「あんしんふくいの食ネット」に豚肉、鶏卵を新たに追加しました。</p> <p>また、米、青果物についても、各JAへの研修や巡回指導等により、順次、生産履歴情報を開示しました。</p> <p>〔「ふくい食の安全・安心を考えるフォーラム」の開催 17年8月 プラザ萬象 参加者200人 現地見学・意見交換会の実施 3地区(小浜・敦賀・福井) 参加者157人 食中毒発生状況(1~12月) 11件 73人 (全国6位) トレーサビリティシステム「あんしんふくいの食ネット」 〈牛肉〉 8月 携帯サイトで情報提供開始 〈豚肉・鶏卵〉 12月 パソコン・携帯サイトで情報提供開始〕</p>	

## 平成17年度 取組項目に係る結果報告(全部局による取組み)

(平成18年3月末現在)

### 【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例: 成果が目標を概ね2割を超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例: 成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例: 成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例: 成果が目標に及ばなかったもの)
- ・取組を継続します。(例: 成果を上げるためには年度を超えて取り組む必要のあるもの)

役職	安全環境部長	氏名	筑後 康雄
取組項目		取組結果	
<p>6 豊かな自然と美しい環境 自然豊かで美しい里地里山の保全・活用を図るため、希少野生生物の生息環境の保全活動や貴重な環境資源の再認識につながる環境学習を進めるとともに、自然体験と農林漁業体験を組み合わせたエコ・グリーン・ツーリズムを進めます。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。 越前市白山・坂口地区(旧武生市西部地域)において、希少な野生生物の生息環境の保全活動を行う地域リーダーを養成しました。 また、地元小中学校においてビオトープづくり等の環境学習を実施しました。 さらに、これらの取組みを県内全域に広げるため、里地里山の保全・活用に取り組む指導者の養成研修を開催しました。 エコ・グリーン・ツーリズムについては、越前市白山地区でエコ・キャンプを開催しました。 また、越前市今立地区では、農家民宿に取り組む農家を拡大しました。</p>	
<p>武生市西部地域における地域リーダーの養成 32名 農村環境学習指導者育成研修会の実施 2回 武生市西部地域によるエコ・キャンプの実施 2回 農家民宿に取り組む農家戸数 5戸に拡大 (16年度3戸)</p>		<p>地域リーダーの養成 33名の地域リーダーを選定、養成 指導者育成研修会の実施 2回(7/29～30、10/7) 104名参加 参加者にはメールマガジンで情報を配信(4回) エコ・キャンプの実施 2回(8/6～8、19～21) 50名参加 農家民宿の拡大 旧今立町において7戸に拡大</p>	

# 平成17年度 取組項目に係る結果報告(全部局による取組み)

(平成18年3月末現在)

## 【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割を超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・取組を継続します。(例:成果を上げるためには年度を超えて取り組む必要のあるもの)

役職	安全環境部長	氏名	筑後 康雄
取組項目		取組結果	
<p>福井の豊かで美しい水資源の保全・活用を図るため、「ふくいのおいしい水」の認定や水資源を活かした産業や観光振興につながる地域づくり、三方五湖のラムサール条約への登録活動を進めます。また、身近な水辺空間である河川・農業用水等の環境に配慮した整備、NPO等との協働による水辺環境の保全などを進めます。</p> <p>「ふくいのおいしい水」の認定に向けた調査か所 120か所以上 環境との調和に配慮した農業農村整備 新たに13地区 魚道等の実証試験 4か所 水辺の楽校プロジェクトの推進 真名川 住民参加型の農業農村整備 3地区 (うちビオトープ造成2か所) 地域用水シンポジウム開催 河川美化活動参加人数 延べ67,000人以上</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>県内各地の直接飲用可能な湧水等を「ふくいのおいしい水」として認定しました。</p> <p>また、名水を活かした地域づくりについては、「若狭町水を活かした地域づくり事業」を採択し、活動を支援しました。</p> <p>三方五湖のラムサール登録については、地元の美浜、若狭両町とともに国に強く働きかけた結果、11月8日に登録されました。</p> <p>身近な水辺空間である河川・農業用水等については、草刈、河床整形(瀬や淵の復元)、魚道の設置などを行いました。</p> <p>また、河川愛護団体の活動に対する助成や農業用水を活用したビオトープ造成を行うなど、NPO等との協働による水辺環境の保全に取り組みました。</p> <p>「ふくいのおいしい水」の認定に向けた調査 ・現地実態調査 174か所 ・水質検査 125か所 ・「福井のおいしい水」認定 35か所 環境との調和に配慮した農業農村整備 新たに13地区 魚道等の実証試験 4か所で実施 水辺の楽校プロジェクトの推進 真名川 (湧水池整備完了) 住民参加型の農業農村整備 3地区 (うちビオトープ造成2か所) 地域用水シンポジウム 平成18年3月5日開催 (県生活学習館) 河川美化活動参加人数 延べ69,233人</p>	

# 平成17年度 取組項目に係る結果報告(全部局による取組み)

(平成18年3月末現在)

## 【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例: 成果が目標を概ね2割を超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例: 成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例: 成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例: 成果が目標に及ばなかったもの)
- ・取組を継続します。(例: 成果を上げるためには年度を超えて取り組む必要のあるもの)

役職	安全環境部長	氏名	筑後 康雄
取組項目		取組結果	
<p>福井の水を育む森林を保全・育成するという観点から、林業生産活動の活性化を図るため、木を使う流れを太くすることを重点に、県産材の活用および森づくりを進めます。また、平成21年度の開催を誘致している全国植樹祭について、水、花、森などふくいの豊かな資源が、全国に誇れるものとして情報発信できるよう準備に着手します。</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>県産材の利用拡大を図るため、森林所有者のグループ化の促進や、伐採・搬出された木材を製材業者や住宅生産者等が連携して住宅分野へ利用する協業体の育成等を通じ、‘木を伐って 使う’ことに重点を置いた取組を展開しました。</p> <p>また、間伐や森林ボランティアの確保を進め、県民参加による森づくりの推進を図りました。</p> <p>平成21年度に開催予定の「第60回全国植樹祭」については、県民が森林の果たす様々な役割を学び、自ら考え、行動し、木、花、水など様々な観点も含めた本県にふさわしい植樹祭となるよう、17年5月に庁内各部局による全国植樹祭開催準備協議会を設置し、コンセプトの検討等を行いました。</p> <p>新年度においては、基本構想の策定に取り組むとともに、県民が身近なところで県産材を活用する「木を使う運動」や、四季折々の花や木の植栽などで美しい景観を創出する「花のまち運動」など、県民運動としての展開を図っていきます。</p>	
<p>森林所有者グループの育成 新たに6グループ育成 (17年度末累計 13グループ) 県産材住宅供給システムに取り組む 協業体を新たに創出 18年度の県産木材利用率 50%を目標 公共工事における県産品活用率指数 (14年度を100とする) 119 森林ボランティアの確保 約3,100名 (16年度末累計 2,934名)</p>		<p>森林所有者グループの育成 7グループ育成 (17年度末累計 14グループ) 県産材住宅供給システムに取り組む協業体設立 (「ふくいの森とつながる家づくりの会」) 県産木材利用率 16年(速報値) 47% 公共工事における県産品活用率指数 119 森林ボランティアの確保 約3,123名</p>	
<p>新エネルギーの普及を促進するため、一般住宅における太陽光や風力などの自然エネルギーによる発電等設備の導入への支援を行うとともに、商工関係団体や建設業界等に対し、導入に向けた積極的な要請を行います。</p>		<p>〔成果等〕 目標達成にはいたりませんでした。</p> <p>一般住宅における太陽光発電等設備の導入への支援を行いました。また、商工関係団体や建設業界、大手住宅メーカー等に対し、導入促進について直接要請を行うなど、積極的に普及に努めました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・建築関係団体(8団体)、大手住宅メーカー(6社)へ設備導入を要請</li> <li>・県環境ISOネットワーク参加企業(120社)に設備導入支援情報を提供</li> <li>・原子力・エネルギー関連技術活用研究会の参加企業を中心に(90社)、設備導入を要請</li> <li>・環日本海自然エネルギーシンポジウム(企業を中心に100名参加)において設備導入を要請</li> </ul> <p>今後、太陽光発電など新エネルギーが地球温暖化防止等に貢献することについて、県民、事業所の理解をさらに深め、太陽光発電設備の導入促進を図ります。</p>	
<p>太陽光発電能力(累計) 10,000kw (16年度末推計 6,000kw) 太陽光発電等の設備を備えた住宅の普及 960戸(3,600kw)</p>		<p>太陽光発電能力(累計) 7,600kw (17年度末推計) 太陽光発電等の設備を備えた住宅の普及 443戸(1,475kw)</p>	

## 平成17年度 取組項目に係る結果報告(全部局による取組み)

(平成18年3月末現在)

### 【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・取組を継続します。(例:成果を上げるためには年度を超えて取り組む必要のあるもの)

役職	健康福祉部長	氏名	梅田 幸重
取組項目		取組結果	
<p>(2) 健康長寿ふくいの推進 「平均寿命」、「健康寿命」ともに世界一で、天寿をまっとうするまで健康でいきいきと生活できる社会の実現を目指し、本県の健康長寿をさらに確固たるものにするための取組みと積極的な情報発信を行います。</p>		<p>〔成果等〕 取組を継続します。</p> <p>健康長寿ふくい推進会議の設置に加え、健康長寿研究の第一人者を「健康長寿ふくい」推進特別アドバイザーとして委嘱し、本県の健康長寿施策への助言を18年度の予算に反映するとともに、食と健康長寿について講演等を行いました。喫煙・肥満対策による健康づくりを推進するため、事業所への指導だけではなく、禁煙指導を行う医師の養成にも取り組みました。</p> <p>「健康長寿」をキーコンセプトとした統一的なイメージ発信を行うための取組方針や職員一人ひとりによるセールス活動の方法などのマニュアルを取りまとめ、これを指針として、全所属が「ふくいブランド」の発信に取り組みました。</p>	
		<p>「健康長寿ふくい」推進特別アドバイザーによる講演等 3回開催 参加者数約840人 事業所向け禁煙・肥満改善研修会の開催 4回開催 参加者数約240人 医師向け禁煙指導研修会開催および禁煙指導医療機関養成 6回開催 受講済医師約49人 県が作成する印刷物等に地図デザインと「健康長寿」の文言を記載 各種会議や全国大会、学会などの開催や、それに参加する際の対応方針について定めた指針を策定 意見発表、情報発信を行った主な会議・大会等 日本身体障害者福祉大会ふくい大会 (17年5月、県内) 災害ボランティア全国フォーラム'05 inふくい (17年6月、県内) 全国広報広聴研究大会(17年9月、愛知県)</p>	
<p>県の研究機関や関係課等とで構成する「健康長寿推進会議(推進管理者:健康福祉部長)」と「健康長寿推進チーム(リーダー:健康増進課長)」を設置し、効果的な連携と機能分担による施策の体系的な推進を図ります。</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>健康長寿ふくい推進会議を中心に、健康長寿の研究をはじめ、健康長寿食品の開発、食育の推進に取り組みました。また、関係機関の健康長寿に関する取組みなどの情報を共有し、調整等を行うとともに、今後取り組むべき重点項目について協議を行いました。</p> <p>〔健康長寿ふくい推進会議の開催回数 4回〕</p>	

## 平成17年度 取組項目に係る結果報告(全部局による取組み)

(平成18年3月末現在)

### 【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・取組を継続します。(例:成果を上げるためには年度を超えて取り組む必要のあるもの)

役職	健康福祉部長	氏名	梅田 幸重
取組項目		取組結果	
<p>県立大学は、健康長寿に関する研究拠点の一つとして「健康長寿研究推進機構」を設置し、健康長寿に関する研究の推進や研究成果の発信を行います。</p> <p>〔健康長寿に関する研究成果を発信 10件 健康長寿に関する公開講座を開催 年10講座 受講者目標延べ500人 健康長寿に関する大学叢書の配布〕</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>健康長寿研究推進機構を設置し、健康長寿に関する研究の推進や研究成果の発信を行いました。</p> <p>〔健康長寿に関する研究成果の発信 クラゲ類からのコラーゲン回収方法など 10件 健康長寿に関する公開講座 心肺蘇生法とAEDの紹介など 10講座 計34回開講 延べ受講者数1,442人 健康長寿に関する県民双書の発行、配布 「健康長寿社会を支える保健・医療・福祉」 「福井県における高齢社会の課題と展望」 健康長寿シンポジウムの開催 10月16日 参加者数330人〕</p>	
<p>食品加工研究所は、加工食品や健康食材の研究・開発拠点として、本年度は、食品加工業者と共に、「健康長寿」というブランドイメージにふさわしい新たな加工食品の研究・開発を行い、成果をイベントなどで県内外へPRしていきます。</p> <p>〔健康長寿に関する研究を推進 新規目標2件〕</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>食品加工研究所は、食品加工業者からの提案に基づいた共同研究を実施しました。</p> <p>これらの研究成果については、平成17年11月に開催された「食のめぐみ祭」において試食会を実施し好評を得ており、平成18年6月頃を目標に、商品販売に向けて取組みを進めています。</p> <p>〔新規商品開発 2件 本県特産のラッキョウを用いた飲料水「フルクタンHP (仮称)」 ウメ果汁を用いた「越前おろし冷麺(仮称)」〕</p>	

## 平成17年度 取組項目に係る結果報告(全部局による取組み)

(平成18年3月末現在)

### 【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・取組を継続します。(例:成果を上げるためには年度を超えて取り組む必要のあるもの)

役職	健康福祉部長	氏名	梅田 幸重
取組項目		取組結果	
<p>衛生環境研究センターは、健康や衛生に関する研究拠点の一つとして、本県の健康寿命を算定するとともに、健康増進に有効な成分分析や感染症の早期診断を図るための新たな検査方法の開発などの研究を行い、学会や専門誌などを通じて全国に研究成果を発信します。</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>健康寿命の算定を行うとともに、新たな検査方法の開発等の研究を行いました。また、その研究成果を活用するとともに、全国に発信しました。</p>	
		<p><b>健康寿命算定</b>                      北陸公衆衛生学会(11/11)で算定方法を発表                      毎年、健康寿命を継続的に算定することとしており、今年度は平成16年健康寿命を算定</p> <p><b>ノロウイルス検査の迅速化のための基礎的研究</b>                      感染性胃腸炎の原因病原体の一つであるノロウイルスの検出について、従来法より迅速に検出できる方法を開発し、北陸公衆衛生学会(11/11)で発表                      これにより、従来法では検出に5日程度要していたが、新法では2日半程度と迅速に結果が出るようになり、業務上行っている検査に導入しました。</p> <p><b>福井県特産キノコの生理活性成分等に関する研究</b>                      マイタケなど県特産の食用キノコ12種類について分析を行い、試験管内試験で2種類(ハタケシメジ、オオイチョウタケ)には強い血圧上昇抑制作用を、動物試験で12種類全てに抗腫瘍作用があることを科学的に確認しました。</p> <p>次の学会で発表、報告書作成                      日本公衆衛生学会(9/15)                      日本食品衛生学会(10/20)                      北陸公衆衛生学会(11/11)                      日本薬学会(3/28予定)</p> <p><b>ウイルス感染症の感染防御に関する研究</b>                      高齢者向け施設でインフルエンザワクチンの接種状況と接種者の抗体値の推移を調査しました。現在、ワクチンの接種の有無とあわせてデータを解析中であり、今後、高齢者にとって最もワクチン接種が適切な時期あるいは回数を明かにする予定。</p>	
<p>ふくい健康の森は、健康づくりの拠点として、より多くの県民に利用いただくため、遠方のグループも利用しやすくなるよう新たに「健康長寿バス」の運行、健康1日体験教室を充実するなど魅力あるメニューの提供と積極的な広報を行います。</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>県民の健康づくりの拠点として、「健康長寿バス」の運行や貯骨等(ちょこっと)教室など魅力あるメニューを提供し、多くの県民に利用されました。</p> <p>また、各種団体への利用呼びかけやパブリシティを使った広報に努めるなど、積極的にPRを行いました。</p>	
		<p><b>健康長寿バス利用者数</b>                      380人(18年3月末、皆増)</p> <p><b>各種健康教室利用者数</b>                      32,544人(18年3月末、対前年同期比12.2%増)</p>	

## 平成17年度 取組項目に係る結果報告(全部局による取組み)

(平成18年3月末現在)

### 【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・取組を継続します。(例:成果を上げるためには年度を超えて取り組む必要のあるもの)

役職	健康福祉部長	氏名	梅田 幸重
取組項目		取組結果	
(財)ふくい産業支援センターは、 県内企業の支援機関として、経営に関する相談などを通じ、健康・介護ビジネスの支援を行います。		[成果等] 目標を達成しました。	
		ビジネスプランの作成支援、開業資金の融資、経営に関する相談対応等により、介護サービス業の開業を支援しました。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">                         開業特別支援資金融資実績 3件 45,000千円                     </div>	
『ふくい2030年の姿』に掲げる 「高質な自然を守り活かす福井」を目指し、本県の豊かな自然を健康づくりに活用する方策を検討します。		[成果等] 取組を継続します。	
		自然を健康づくりに活用するため、国の産学官連携による森林セラピー研究会などの取組みについて、情報の収集を行いました。 今後、それらの活用方法について検討していきます。	

## 平成17年度 取組項目に係る結果報告(全部局による取組み)

(平成18年3月末現在)

### 【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・取組を継続します。(例:成果を上げるためには年度を超えて取り組む必要のあるもの)

役職	健康福祉部長	氏名	梅田 幸重
取組項目		取組結果	
<p>4 少子化対策 「福井県元気な子ども・子育て応援計画」に基づき、関係部局が連携し、市町村、企業、関係団体等の取組みを促し、総合的な「子育て支援システム」を構築するなど魅力ある子育て環境を整備することにより、子どもがたくさんいる社会の実現を目指します。</p>		<p>〔成果等〕 取組を継続します。</p> <p>少子化対策推進チームを中心に、関係部局と連携し、市町村や企業等を直接訪問し、少子化対策への取組みを働きかけました。</p> <p>地域や企業、教育など、子育て支援を推進する立場にある関係者で構成する推進会議を設け、社会全体での子育て応援に向けた取組みについて検討し、新年度は、行政はもとより、委員自らも推進役となって、より積極的に取り組んでいきます。</p>	
<p>父親が家事・育児により参画し、「女性・男性の共立社会」の実現を目指して、フォーラムや学習会の開催、各種団体等への啓発、男性社員の子育てを応援する企業の表彰(10社以上)、様々な広報媒体の積極的な活用等により、家事・育児は父母が協力して行うという意識を社会全体に広げる県民運動を展開します。</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>男女の固定的役割分担意識の見直しを図るため、フォーラムや各種学習会を開催し、また生活情報誌などを活用し男女共同参画意識について啓発を実施しました。</p> <p>男性が仕事と家庭を両立できるよう、妻の出産に合わせた男性の休暇取得促進や時間外労働の削減に取り組む企業を「父親子育て応援企業」として表彰し、その取組みをホームページで紹介しました。今後、他の広報媒体を利用して、広く紹介します。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>男女共同参画次世代交流フォーラムの開催 3月18日 参加者数 220人 ゆー・あいカレッジ各種学習会の開催 28講座 参加者数延べ2,812人 父親子育て応援企業表彰 10社</p> </div>	
<p>親が子どもを独立した社会的存在として認め、子どもの目線でアドバイスし、支えていく社会を目指し、保護者に対する子育て講座や家庭教育講座、子育て支援センターやつどいの広場、新たに認定・登録する子育てマイスター(今年度200人以上)等を十分に活用し、親の子育て力の向上に重点をおいた指導・相談を行います。</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>保護者が地域で気軽に子育てに関する相談ができるよう子育て支援体制の充実を図るため、保育士などの資格を有する方を子育てマイスターとして登録を進めるとともに、子育て支援センターや児童館などにおいて育児相談会等の講師として活動を行い、またラジオにより育児に関するアドバイスをを行いました。</p> <p>また、妊娠期や就学時健診等を活用した保護者への子育て講座を全市町において実施し、企業、保育所において家庭教育講座を実施しました。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>子育てマイスター 登録者 405人 主な活動内容 ラジオでの子育て相談(17年10月から月1回)、児童科学館等における子育て相談、講演会講師、母子健診補助、イベントにおける託児等 企業等職場における家庭教育出前講座 実施回数38回、参加者数1,626人</p> </div>	

## 平成17年度 取組項目に係る結果報告(全部局による取組み)

(平成18年3月末現在)

### 【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・取組を継続します。(例:成果を上げるためには年度を超えて取り組む必要のあるもの)

役職	健康福祉部長	氏名	梅田 幸重
取 組 項 目		取 組 結 果	
<p>県内企業において育児休業や看護休暇の取得など働きながら子育てしやすい環境づくりを促進するため、各種支援制度を掲載したガイドブックの作成や経済団体のセミナー等での普及啓発に加え、個別に企業を200社訪問し、30社において一般事業主行動計画が策定、実践されるようにします。</p>		<p>[成果等] 目標を上回って達成しました。</p>	
		<p>育児休業等の子育て支援制度や企業に対する助成制度等を掲載したハンドブック等を作成・配布し、セミナー開催や企業訪問等により普及に努めた結果、目標を上回る企業において一般事業主行動計画が策定されました。</p> <p style="text-align: center;"> <b>企業訪問数 250社</b>  <b>労働者300人以下の企業における一般事業主行動計画策定 47社</b>  <b>子育て支援奨励金申請企業数 延べ69社</b>  <b>(18年3月末現在)</b> </p>	
<p>社会全体で若者の結婚を応援するため、200人の結婚相談員が、定例の相談日を月1回から2回に増やして対応するほか、家庭訪問も行うなど仲人機能の充実を図るとともに、男女の出会い・交流の場づくりに市町村が積極的に取り組むよう促し、また、企業等の事業所間での交流も働きかけます。</p>		<p>[成果等] 目標を上回って達成しました。</p>	
		<p>結婚相談員が家庭訪問するなど活発に活動し、昨年度実績を上回る方が結婚されました。 (17年度:28組 → 18年度:43組)</p> <p>市町が男女の出会い、交流する機会を提供するイベントを実施し、多くの若者が参加しました。 企業訪問を通し上司などが縁結び役となって結婚を応援するような取組みを働きかけました。</p> <p style="text-align: center;"> <b>結婚相談員の活動による成婚数 43組(18年2月末)</b>  <b>若者の出会い・交流の応援事業</b>  <b>実施市町村数 7市町、参加者数 627人</b> </p>	

## 平成17年度 取組項目に係る結果報告(全部局による取組み)

(平成18年3月末現在)

### 【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例: 成果が目標を概ね2割を超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例: 成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例: 成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例: 成果が目標に及ばなかったもの)
- ・取組を継続します。(例: 成果をあげるためには年度を超えて取り組む必要のあるもの)

役職	産業労働部長	氏名	藤原 宣章				
取 組 項 目		取 組 結 果					
7 産業の活性化 (1) 15,000人の雇用創出 「雇用創出プラン」に掲げた施策の雇用創出効果を検証するとともに、目標達成に向け、他部局との連携および関係機関への働きかけを継続し、雇用創出が図られるよう速やかに対応します。		〔成果等〕 目標を達成しました。					
		雇用創出プランに掲げた施策を着実に実施し、3,200人の雇用が創出されました。 <table style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>新たな雇用の受け皿づくり</td> <td style="text-align: right;">1,910人</td> </tr> <tr> <td>雇用のミスマッチの解消</td> <td style="text-align: right;">1,290人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td style="text-align: right;">3,200人</td> </tr> </table>		新たな雇用の受け皿づくり	1,910人	雇用のミスマッチの解消	1,290人
新たな雇用の受け皿づくり	1,910人						
雇用のミスマッチの解消	1,290人						
計	3,200人						
〔15,000人の雇用創出 達成率80%〕		〔平成17年度までの合計 13,823人 達成率 92.2% 平成17年完全失業率 2.7%(2年連続全国1位)〕					
就業環境の厳しい新規学卒者への就職支援に取り組むとともに、「若者就職支援センター(ジョブカフェ)」において、フリーター、若年無業者や学生等の就職促進を図ります。また、「(社)ふくい農林水産支援センター」において、新規就農希望者に対する支援を行います。		〔成果等〕 目標を達成しました。					
		「若者就職支援センター(ジョブカフェ)」において、若者の定職化に向けたきめ細かな就職支援に努めました。また、新規就農相談会(6回)を開催し、就農を促進しました。					
〔新規就農者数 年間20名確保〕		〔新規就農相談会等による新規就農 23人 平成18年3月高校卒業予定者の就職内定率 93.0% (平成18年1月末現在、全国7位)〕					
就職支援を必要とする若者の利便性を高めるため、県内10か所に「ミニジョブカフェ」を設置します。また、県内各自治体の雇用施策との連携を図るとともに広報手段を活用するなど協力して事業を展開し、若者の就職支援を図ります。		〔成果等〕 目標を一部達成しませんでした。					
		6月20日に、ミニジョブカフェを県内9か所に設置し、全県的な就職支援に努めました。また、市町村の広報媒体を活用して、ミニジョブカフェの周知広報に努めました。					
〔設置場所 県内9か所(福井、敦賀、武生、小浜、大野、勝山、鯖江、あわら、丸岡)〕		〔ミニジョブカフェの利用者数 1,050人〕					
県内事業主に対して「若者就職支援センター(ジョブカフェ)」の事業への理解とフリーター、若年無業者の資質に応じた採用計画を要請し、こうした若者の就職促進を図ります。		〔成果等〕 目標を達成しました。					
		「若者就職支援センター(ジョブカフェ)」において、県内事業所を訪問し、企業ニーズの把握や若者のニーズの説明を行うとともに、若者に対して採用に関する助言等を実施しました。					
〔訪問した県内事業所 1,300社〕		〔ジョブカフェ利用の就職人数 1,100人(学生を含む) (3月末見込み)〕					

## 平成17年度 取組項目に係る結果報告(全部局による取組み)

(平成18年3月末現在)

### 【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例: 成果が目標を概ね2割を超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例: 成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例: 成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例: 成果が目標に及ばなかったもの)
- ・取組を継続します。(例: 成果をあげるためには年度を超えて取り組む必要のあるもの)

役職	産業労働部長	氏名	藤原 宣章
取 組 項 目		取 組 結 果	
<p>(2) ビジットふくい 「ビジット“ふくい”推進計画」に基づき、地域住民、観光事業者、観光協会、市町村と一体となって、「輝く観光地」の創造に取り組めます。</p>		<p>〔成果等〕 取組を継続します。</p> <p>地域住民、観光事業者、観光協会、市町村と、「輝く観光地」の創造に向け協議を重ねてきました。</p> <p style="text-align: center;">〔 「輝く観光地」創造に向けた協議回数 10地域 延べ48回 〕</p>	
<p>既存の観光地や民宿が集積している地域の活性化を図るため、明確なビジョンと熱意を持って意欲的に取り組む地域を市町村と一体となって支援します。</p> <p style="text-align: center;">〔 「活性化プラン」を作成し魅力向上に取り組む観光地 2か所 民宿集積地域活性化検討会議 県内4地区で年2回ずつ開催 〕</p>		<p>〔成果等〕 目標を一部達成しませんでした。</p> <p>地域住民の意見を取り入れた整備計画策定に時間を要したこと、市町村合併前にハード事業を控える地域が多かったことなどから、観光地のハード整備等を行う「活性化プラン」の作成を行った地域はありませんでしたが、各地域と活性化に向けた協議を進めた結果、広域観光推進・異業種連携のための協議会が設立されました。</p> <p>また、民宿集積地域の活性化に向けて協議を重ねてきました。</p> <p style="text-align: center;">〔 「活性化プラン」を作成し魅力向上に取り組む 観光地 0か所 広域観光推進・異業種連携のための協議会設置 3協議会(あわら三国・奥越・福井駅前) 民宿集積地域活性化検討会議 県内4地区で延べ12回開催 〕</p>	

## 平成17年度 取組項目に係る結果報告(全部局による取組み)

(平成18年3月末現在)

### 【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例: 成果が目標を概ね2割を超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例: 成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例: 成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例: 成果が目標に及ばなかったもの)
- ・取組を継続します。(例: 成果をあげるためには年度を超えて取り組む必要のあるもの)

役職	産業労働部長	氏名	藤原 宣章
取 組 項 目		取 組 結 果	
<p>一乗谷朝倉氏遺跡や若狭の国宝群など全国に知られていない地域資源と、地域ブランドの創造や近年の旅行ニーズであるエコ・グリーンツーリズムなどに熱心に取り組む地域を結びつけた旅行商品の開発に取り組みます。</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p>	
		<p>旅行エージェントやJR西日本等と連携し、全国に知られていない地域資源や地域ブランドの創造やエコ・グリーンツーリズム等に取り組む地域を取り入れた旅行商品を企画し、観光地のPRや観光客誘致につなげました。</p>	
<p>〔 新たに誘致する観光客数 30,000人 〕</p>		<p>〔 新たに誘致した観光客数 30,939人 (3月末見込み) 企画した旅行商品のパンフレット等発行部数 837万部 〕</p> <p>新たな旅行商品を開発(全国に知られていない地域・エコグリーンツーリズムの組入れ等) (例) ・そば道場-三国民宿泊-熊川宿-小浜-小浜国宝めぐり ・三方五湖-熊川宿-地引網体験-民宿-気比の松原 ・大野まちなか観光-平泉寺-越前海岸-福井市内泊-三国湊</p>	
<p>ふくいブランド大使などヒューマンネットワークを活用するとともに、市町村や庁内各部局と連携して各種の会議や全国大会、学会などの誘致に取り組めます。</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p>	
		<p>福井コンベンションビューローと連携を図りながら、誘致を推進しました。</p>	
<p>〔 コンベンション開催回数 165回 〕</p>		<p>〔 コンベンション開催回数 166回 (3月末見込み) コンベンション会場において県外客に対する観光PRを実施 24回 〕</p> <p>ふくいブランド大使にコンベンション誘致を依頼(5月)</p>	

**平成17年度 取組項目に係る結果報告(全部局による取組み)**  
(平成18年3月末現在)

**【取組結果の区分】**

- ・目標を上回って達成しました。(例: 成果が目標を概ね2割を超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例: 成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例: 成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例: 成果が目標に及ばなかったもの)
- ・取組を継続します。(例: 成果をあげるためには年度を超えて取り組む必要のあるもの)

役職	産業労働部長	氏名	藤原 宣章
取組項目		取組結果	
<p>新しい福井駅を起点とするまちなか観光を推進するため、福井市や市観光協会等と協力して、景観の統一などに取り組むとともに、ショッピングや福井ならではの食も楽しめるようにするため、若手経営者とも協働して新たな魅力の創出に努めます。</p> <p>〔 まちなか観光のための大型バス駐車スペースを駅近郊に確保 〕</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>福井市中心部の飲食店や商店の若手経営者と協議を重ねてきました。現在、クーポン券などを組み入れた散策マップを作成中です。</p> <p>また、福井駅前の景観統一のためアーケードの整備を行いました。</p> <p>〔 福井市中心部の若手経営者と協議 8回 〕</p> <p>まちなかでの大型バス駐車場を確保 (福井市立郷土歴史博物館 (養浩館庭園) 駐車場)</p>	
<p>本県の空の玄関口である小松空港を活用した観光・物産のPR、空港までの交通アクセスの向上に取り組めます。</p>		<p>〔成果等〕 取組を継続します。</p> <p>小松空港内の観光物産のPR・販売スペースの活用促進を図りました。</p> <p>また、空港への交通アクセス向上のため、小松空港を表示する標識を主要なルートに設置するとともに、インターチェンジ新設に向けて調査を進めています。</p> <p>〔 観光PRコーナーを活用した国民文化祭のPR・菓子の販売 (10月14日～16日) 〕</p> <p>観光コーナーの展示を季節ごとに入替え</p> <p>福井県名産品コーナーの充実 菓子・海産物など47品目</p> <p>道路標識設置数 福井県内6か所 石川県内23か所</p>	

**平成17年度 取組項目に係る結果報告(全部局による取組み)**  
(平成18年3月末現在)

**【取組結果の区分】**

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・取組を継続します。(例:成果を上げるためには年度を超えて取り組む必要のあるもの)

役職	農林水産部長	氏名	川口 義夫
取組項目		取組結果	
<p>(3) ふくい野菜のブランド化 有望品目について、県外、特に都市圏における認知度向上を図るため、流通業者に対する働きかけや、インターネットの活用も含めた多様な流通展開への支援を行います。 また、県外事務所や観光プロモーションとも連携し、ふくい野菜と食文化等の地域資源との融合も図りながら、ブランド化への取組を展開します。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>都市圏における有望品目の認知度 年度末に2倍にアップ</p> </div>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>都市圏における認知度向上を図るため、「ふくい朝市」の開催や、ホテルにおける県産食材フェアの開催、インターネット物産展の開催など多様な流通展開を推進し、これを契機に継続取引が開始されるなど意欲ある生産者の取組を促進しました。</p> <p>また、県と戦略提携している伊藤忠商事の仲立ちにより、17年9月20日から、福井梅を使用したおむすびが北陸地区のファミリーマートで販売されるなど、流通業界に対する働きかけの成果が現れました。</p> <p>販売戦略の展開に当たっては、県外事務所や観光プロモーションとも連携し、ふくい野菜と食文化や歴史等ともからめてストーリー性のある展開を図りました。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>○新たな販売手法の導入 インターネット物産展の開催(2回) ・オイシックス:11月3日～23日 23事業者出展、販売額約600万円 ・楽天 :1月20日～2月19日 20事業者出展、販売額約2,100万円 ※目標販売額(約500万円)を大幅に上回る成果 県産農林水産物の海外輸出 ・福井すいか(香港) 17年7月～8月 約1.3トン(232玉)完売</p> <p>○イメージアップ 都市圏ホテルにおける県産食材フェアの開催 ・京王プラザホテル、帝国ホテル大阪など5か所 ・県産食材継続使用(京王プラザ:越のルビー)</p> <p>○流通業界に対する働きかけ ・福井梅を使用したおむすびが北陸地区ファミリーマートで販売 17年9月20日～11月19日 約4万9千個販売</p> <p>○マスコミに対する働きかけ ・旅行雑誌等に県産食材等の紹介</p> <p>○消費者に対する働きかけ 「ふくい」朝市の開催(3回) ・17年6月～7月 大阪府豊中市「せんちゅうぱる」 ・のべ12事業者出店、販売額約93万円、来場者約1.7万人</p> <p>県外事務所、観光プロモーションとの連携 ・県外事務所との連携により、県内生産者等が「ふくいスローフードまつり」に出店し、新年度から東京麻布の高級スーパーにおいて越のルビーやジュースの取扱い予定 ・福井県「越前・若狭」の物産と観光展において、食や伝統工芸品のPR 18年1月26日～31日 京王百貨店新宿店ほか ふくい野菜を知っている消費者の割合調査(調査人数:1,276人) 6月～7月調査 7.9% → 2月～3月調査 16.7% (東京、大阪)</p> </div>	

**平成17年度 取組項目に係る結果報告(全部局による取組み)**  
(平成18年3月末現在)

**【取組結果の区分】**

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・取組を継続します。(例:成果を上げるためには年度を超えて取り組む必要のあるもの)

役職	農林水産部長	氏名	川口 義夫
取組項目		取組結果	
健康長寿というブランド・イメージを高めるための栄養・機能性成分の分析や、新たな栽培技術の開発に取り組みます。		〔成果等〕 目標を達成しました。	
		<p>食品加工研究所において、野菜3品目について栄養成分の比較分析と、9品目について抗酸化性の分析を行いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・越のルビーについては、他品種に比べ、ビタミンAが高めであることが判明</li> <li>・河内赤カブについては、他品種に比べ、糖、辛み成分が多いことが判明</li> <li>・木田チリメンシソについては、抗酸化性が高いことが判明</li> </ul> <p>また、カブの施設・節水栽培には、河内赤カブ、穴馬カブが優れ、ツケナの施設・年内出荷栽培には、勝山水菜、菜おけが優れていることが明らかとなりました。</p>	
消費者に信頼される産地づくりを進めるため、適切な生産情報の提供による「顔が見える」安全安心な福井野菜の供給システムづくりを進めるとともに、生産拡大のための体制を強化します。		〔成果等〕 目標を達成しました。	
		<p>研修会の開催や巡回指導等を通じて、生産履歴の記帳の徹底や、情報開示を促進し、農薬・肥料の適正使用を図りました。</p> <p>また、栽培面積（販売額）を現状の1.2倍（1.5倍）以上に拡大しようとする意欲ある営農集団を28組織育成しました。</p> <p style="text-align: center;">〔 青果物（9品目）の生産履歴記帳率 98.7%に向上 生産者団体等による生産履歴情報の開示 JAテラル越前が新たにナス、サトイモ、ネギを開示 〕</p>	
生産者、流通・販売業者、消費者、学識経験者等で構成する「県産農林水産物ブランド推進会議」（仮称）を設置して推進体制を強化し、品質管理を行うとともに、新たにブランド化を図る有望品目の選定等を行います。		〔成果等〕 取組を継続します。	
		<p>生産者、流通・販売事業者、観光、広告関係者の意見を聞きながら、品質の確保と消費者ニーズを的確に踏まえた販売戦略の展開を基本として、福井すいかの輸出販売や、都市圏ホテルでの食材フェア開催等を通じて、園芸品目や伝統野菜のブランド化に取り組みました。</p> <p>販売戦略の展開に当たっては、本県の特徴ある青果物について品目を絞り込み（戦略的品目：ウメ、スイカ、ラッキョウ、勝山水菜等、高収益園芸品目：高糖度デザートトマト等、その他：サトイモ等）、新年度において、生産から流通を中心とした連携をさらに強化し、重点的な販売戦略を展開します。</p>	

**平成17年度 取組項目に係る結果報告(全部局による取組み)**  
(平成18年3月末現在)

**【取組結果の区分】**

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・取組を継続します。(例:成果を上げるためには年度を超えて取り組む必要のあるもの)

役職	農林水産部長	氏名	川口 義夫
取組項目		取組結果	
<p>8 食育の推進 家庭、地域、学校が一体となった食育活動を推進し、県民運動としてネットワーク化を図ります。また、食育ボランティア等食育活動に携わる者の研鑽と活動を促進する食育活動マニュアルを作成し、研修等に活用します。</p> <p style="font-size: 2em;">〔</p> <p style="margin-left: 2em;">食育ボランティア研修会の開催 22回 食育推進実務者研修会の開催 12回 食育ボランティアの活動回数 延べ700回</p> <p style="font-size: 2em;">〕</p>	<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>家庭、地域、学校が一体となった食育活動を推進し、県民運動として展開するため、福井型食生活推進県民会議を中心として関係者のネットワーク化を図りました。</p> <p>また、食育ボランティア（18年3月末現在 個人383名、法人・グループ132団体）の育成を進めるとともに、食育活動マニュアルを作成し、研修会等で活用しました。</p> <p style="font-size: 2em;">〔</p> <p style="margin-left: 2em;">食育ボランティア研修会の開催 22回 食育実務者研修会の開催 12回 食育ボランティアの活動回数 延べ741回</p> <p style="font-size: 2em;">〕</p>		
<p>体験を重視した食育を推進するため、モデル市町村を指定し、地域や学校において生産するから食べるまでの一貫した食育活動を実践します。</p> <p style="font-size: 2em;">〔</p> <p style="margin-left: 2em;">モデル市町村の指定 7市町村 (教育庁4市町村、農林水産部3市町)</p> <p style="font-size: 2em;">〕</p>	<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>モデル市町村を指定し、地域や学校における食育活動の実践を促進するとともに、こうした取組みについて、食育活動マニュアルや研修会を通して他市町村へ普及拡大を図りました。</p> <p style="font-size: 2em;">〔</p> <p style="margin-left: 2em;">モデル市町の指定 7市町 (教育庁：鯖江市、敦賀市、小浜市、福井市(旧越廼村)、 農林水産部：福井市、越前市、越前町)</p> <p style="font-size: 2em;">〕</p>		
<p>家庭での食育活動を推進するため、「ごはん食」の実践による食生活改善活動や家庭における食育実践の普及を行います。</p>	<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>JAと協働し、ごはん食を推進するための啓発活動や、簡単レシピのホームページ開設（17年9月～ 約1.5万件アクセス）、食育実践家族コンクールの実施等により、家庭における「ごはん食」を中心とした食育活動の実践を促進しました。</p>		

**平成17年度 取組項目に係る結果報告(全部局による取組み)**  
(平成18年3月末現在)

**【取組結果の区分】**

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・取組を継続します。(例:成果を上げるためには年度を超えて取り組む必要のあるもの)

役職	農林水産部長	氏名	川口 義夫
取組項目		取組結果	
<p>地域での食育活動を推進するため、『「健康長寿」食育フォーラム』(仮称)を開催し、本県の取組みを全国に情報発信します。</p>		〔成果等〕 目標を達成しました。	
		<p>地域での食育活動を推進するため、17年11月26日に「食育を考えるフォーラム」を開催し、身近なところから食育を進めていくことの大切さ等について県民の理解を促進しました。</p>	
<p>学校での食育活動を推進するため、栄養教諭を配置し、「食育」の授業や食に関する課題を抱える子どもおよび保護者に対する個別指導を充実します。また、新鮮で安全・安心な県産農林水産物や伝承料理等を活用した学校給食を推進します。さらに、高校生の食の選択する力を向上させるため、「高校生ふくい食育王選手権大会」(仮称)を開催します。</p>		〔成果等〕 目標を達成しました。	
		<p>県下小中学校に栄養教諭10名を配置し、児童生徒の食生活全般にわたる個別指導の強化を図りました。 また、学校給食における県産農林水産物の安定供給体制整備を促進するとともに、伝承料理等の活用(月1回以上)を図りました。 さらに、高校生食育王選手権大会(15高校、約100名参加)や、食育ボランティアによる出前講座(9高校、約870名受講)を開催し、バランスのよい食生活の実践を普及しました。</p>	

**平成17年度 取組項目に係る結果報告(全部局による取組み)**  
(平成18年3月末現在)

**【取組結果の区分】**

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・取組を継続します。(例:成果を上げるためには年度を超えて取り組む必要のあるもの)

役職	土木部長	氏名	児玉 忠
取組項目		取組結果	
<p>9 景観を活かす街並み創造                      県土を形成する広域的な景観を保全・創出するため、景観づくり検討会を設置し、良好な景観を形成するための指針を取りまとめます。また、景観法の施行などを受け、市町村が主体的に取り組む景観計画の策定に積極的に参画し、地域の個性を活かした景観づくりを支援します。</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>景観づくり検討会を設置し、県が景観行政団体になることを同意した小浜市、大野市、勝山市の区域を対象に、広域的な観点から景観形成の方針を景観づくりガイドラインとして策定しました。                      また、小浜市、大野市、福井市の景観計画策定に向けた取組みに参画し、各市の景観づくりを支援しました。                      さらに、県民参加による景観づくりをテーマとした「まちづくりセミナー」を平成17年8月に開催しました。</p>	
<p>〔景観づくりガイドラインの策定                      県民参加による景観づくりをテーマとした「まちづくりセミナー」の開催 1回〕</p>		<p>〔景観づくりガイドラインの策定                      県民参加による景観づくりをテーマとした「まちづくりセミナー」の開催 1回 参加者137人                      市の景観計画策定に向けた取組みに参画                      小浜市、大野市、福井市〕</p>	
<p>歴史的建造物を活用したまちづくりを進めるため、歴史的建造物データベースの普及・活用を図るなど県民の保存・活用意識を高めるとともに、歴史的建造物を市町村が活用する事業に支援します。また、白壁・切妻造りなどの福井の伝統的民家を継承していくため、新築や改修への補助などを行うとともに、市町村と連携してより一層の保存・活用に向けた取組みを検討します。</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>歴史的建造物データベースを報告書「福井の歴史的建造物」として取りまとめ、県内各公立図書館に配備するとともに、ホームページで公開しました。また、歴史的建造物を活用したまちづくりの講演会を開催する等、意識高揚に努めました。                      また、越前市が行う歴史的建造物の保存活用事業に対し支援を行いました。                      伝統的民家については、補助制度を設けるとともに、「福井県伝統的民家の保存および活用の推進に関する条例」を制定し、市町と連携しての取組み体制を明確化しました。今後は、伝統的民家群保存活用推進地区の指定、伝統的な建築技術の保存などに取り組んでいきます。</p>	
<p>〔歴史的建造物データベースのホームページでの公開や県内公立図書館への配布                      歴史的建造物を活用したまちづくりに関するシンポジウム等の開催 2回〕</p>		<p>〔歴史的建造物データベースのホームページでの公開                      平成17年12月から公開                      県内公立図書館への配布                      県内40箇所の全公立図書館に報告書を配備                      歴史的建造物を活用したまちづくりに関するシンポジウム等の開催 2回                      歴史的建造物の保存活用に対する支援                      越前市 旧料亭春駒 1件〕</p>	